

豊島区災害廃棄物処理基本計画の主な変更点について

No	ページ	変更前	変更後																																																
1	p7	<p>3 災害廃棄物発生量推計 省略</p> <p>(1) 地震災害（発生前） 「首都直下地震による東京の被害想定（東京都防災会議）」における被害想定のうち、本区において最も大きな被害が想定される地震は、都心南部直下地震（冬の夕方18時・8m/秒）及び多摩東部直下地震（冬の夕方18時・8m/秒）である。このうち、災害廃棄物の量が特に多く出ることが予想されている、多摩東部直下地震（冬の夕方18時・8m/秒）に基づき被害を想定する。</p>	<p>3 災害廃棄物発生量推計 省略</p> <p>(1) 地震災害（発生前） 「首都直下地震による東京の被害想定（東京都防災会議）」における被害想定のうち、本区において最も大きな被害が想定される地震は、都心南部直下地震（冬の夕方18時・8m/秒）及び多摩東部直下地震（冬の夕方18時・8m/秒）である。【赤字部分削除】</p>																																																
2	p9~10	<p>②生活ごみ 生活ごみ発生量（約140 t/日、約50,976 t/年）は、以下の方法で推計する。 ア 計算式</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>災害時のごみ発生量 =①人口（人）×（②発生原単位（g/人・日）+③ごみ量増加実績（g/人・日）</p> </div> <p style="text-align: center;">（出典：「特別区災害廃棄物処理対策ガイドライン」）</p> <p>イ 推計時の前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発生原単位は、令和6年度の実績値（451 g/人・日）を設定する。 ●東日本大震災後における岩手県・宮城県内の被災市町村でのごみ量増加実績分（平均23g/人・日の増加）を加算して推計する。 ●算定時に使用する区の人口は令和7年1月1日現在（住民基本台帳）とする。 <p>ウ 発生量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>数量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(a) 人口</td> <td style="text-align: right;">294,644</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>(b) 発生原単位</td> <td style="text-align: right;">451</td> <td>g/人・日</td> </tr> <tr> <td>(c) ごみ量増加実績</td> <td style="text-align: right;">23</td> <td>g/人・日</td> </tr> <tr> <td>(d) 発生原単位 計 (a+b)</td> <td style="text-align: right;">474</td> <td>g/人・日</td> </tr> <tr> <td>(e)災害時の生活ごみ発生量 (a×d)</td> <td style="text-align: right;">139,661,256</td> <td>g/日</td> </tr> <tr> <td>(f) (単位換算)</td> <td style="text-align: right;">約 140</td> <td>t/日</td> </tr> <tr> <td>(g) (年換算)</td> <td style="text-align: right;">約 50,976</td> <td>t/年</td> </tr> </tbody> </table>	項目	数量	単位	(a) 人口	294,644	人	(b) 発生原単位	451	g/人・日	(c) ごみ量増加実績	23	g/人・日	(d) 発生原単位 計 (a+b)	474	g/人・日	(e)災害時の生活ごみ発生量 (a×d)	139,661,256	g/日	(f) (単位換算)	約 140	t/日	(g) (年換算)	約 50,976	t/年	<p>②生活ごみ 生活ごみ発生量（約143 t/日、約52,180 t/年）は、以下の方法で推計する。 ア 計算式</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>災害時のごみ発生量 =①人口（人）×（②発生原単位（g/人・日）+③ごみ量増加実績（g/人・日）</p> </div> <p style="text-align: center;">（出典：「特別区災害廃棄物処理対策ガイドライン」）</p> <p>イ 推計時の前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発生原単位は、令和6年度の実績値（451 g/人・日）を設定する。 ●東日本大震災後における岩手県・宮城県内の被災市町村でのごみ量増加実績分（平均23g/人・日の増加）を加算して推計する。 ●算定時に使用する区の人口は被害想定で採用されている令和2年国勢調査の人口（301,599人）とする。 <p>ウ 発生量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>数量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(a) 人口</td> <td style="text-align: right;">301,599</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>(b) 発生原単位</td> <td style="text-align: right;">451</td> <td>g/人・日</td> </tr> <tr> <td>(c) ごみ量増加実績</td> <td style="text-align: right;">23</td> <td>g/人・日</td> </tr> <tr> <td>(d) 発生原単位 計 (a+b)</td> <td style="text-align: right;">474</td> <td>g/人・日</td> </tr> <tr> <td>(e)災害時の生活ごみ発生量 (a×d)</td> <td style="text-align: right;">142,957,926</td> <td>g/日</td> </tr> <tr> <td>(f) (単位換算)</td> <td style="text-align: right;">約 143</td> <td>t/日</td> </tr> <tr> <td>(g) (年換算)</td> <td style="text-align: right;">約 52,180</td> <td>t/年</td> </tr> </tbody> </table>	項目	数量	単位	(a) 人口	301,599	人	(b) 発生原単位	451	g/人・日	(c) ごみ量増加実績	23	g/人・日	(d) 発生原単位 計 (a+b)	474	g/人・日	(e)災害時の生活ごみ発生量 (a×d)	142,957,926	g/日	(f) (単位換算)	約 143	t/日	(g) (年換算)	約 52,180	t/年
項目	数量	単位																																																	
(a) 人口	294,644	人																																																	
(b) 発生原単位	451	g/人・日																																																	
(c) ごみ量増加実績	23	g/人・日																																																	
(d) 発生原単位 計 (a+b)	474	g/人・日																																																	
(e)災害時の生活ごみ発生量 (a×d)	139,661,256	g/日																																																	
(f) (単位換算)	約 140	t/日																																																	
(g) (年換算)	約 50,976	t/年																																																	
項目	数量	単位																																																	
(a) 人口	301,599	人																																																	
(b) 発生原単位	451	g/人・日																																																	
(c) ごみ量増加実績	23	g/人・日																																																	
(d) 発生原単位 計 (a+b)	474	g/人・日																																																	
(e)災害時の生活ごみ発生量 (a×d)	142,957,926	g/日																																																	
(f) (単位換算)	約 143	t/日																																																	
(g) (年換算)	約 52,180	t/年																																																	
3	p10	<p>③避難所ごみ 避難所ごみ発生量（約22 t/日）は、以下の方法で推計する。 ア 計算式</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>避難所ごみ発生量 =①避難者数（人）×②発生原単位（g/人・日）</p> </div> <p style="text-align: center;">（出典：環境省「災害廃棄物対策指針技術資料」）</p> <p>イ 推計時の前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難者数に応じて、避難所ごみの発生量を推計する。推計方法は災害時のごみ発生量の推計方法に準ずる。 ●多摩東部直下地震（冬の夕方18時・風速8m/s）を想定した避難者数47,880人を前提とする。 <p>ウ 発生量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>数量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(a) 避難者数</td> <td style="text-align: right;">47,880</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>(b) 発生原単位</td> <td style="text-align: right;">451</td> <td>g/人・日</td> </tr> <tr> <td>(c) 避難所ごみの発生量 (a×b)</td> <td style="text-align: right;">21,593,880</td> <td>g/人</td> </tr> <tr> <td>(d) (単位換算)</td> <td style="text-align: right;">約 22</td> <td>t/日</td> </tr> </tbody> </table>	項目	数量	単位	(a) 避難者数	47,880	人	(b) 発生原単位	451	g/人・日	(c) 避難所ごみの発生量 (a×b)	21,593,880	g/人	(d) (単位換算)	約 22	t/日	<p>③避難所ごみ 避難所ごみ発生量（約14 t/日）は、以下の方法で推計する。 ア 計算式</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>避難所ごみ発生量 =①避難者数（人）×②発生原単位（g/人・日）</p> </div> <p style="text-align: center;">（出典：環境省「災害廃棄物対策指針技術資料」）</p> <p>イ 推計時の前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ●避難者数に応じて、避難所ごみの発生量を推計する。推計方法は災害時のごみ発生量の推計方法に準ずる。 ●避難所避難者数が多い、都心南部直下地震（冬の夕方18時・8m/秒）を想定した避難者数32,136人を前提とする。 <p>ウ 発生量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>数量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(a) 避難者数</td> <td style="text-align: right;">32,136</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>(b) 発生原単位</td> <td style="text-align: right;">451</td> <td>g/人・日</td> </tr> <tr> <td>(c) 避難所ごみの発生量 (a×b)</td> <td style="text-align: right;">14,493,336</td> <td>g/日</td> </tr> <tr> <td>(d) (単位換算)</td> <td style="text-align: right;">約 14</td> <td>t/日</td> </tr> </tbody> </table>	項目	数量	単位	(a) 避難者数	32,136	人	(b) 発生原単位	451	g/人・日	(c) 避難所ごみの発生量 (a×b)	14,493,336	g/日	(d) (単位換算)	約 14	t/日																		
項目	数量	単位																																																	
(a) 避難者数	47,880	人																																																	
(b) 発生原単位	451	g/人・日																																																	
(c) 避難所ごみの発生量 (a×b)	21,593,880	g/人																																																	
(d) (単位換算)	約 22	t/日																																																	
項目	数量	単位																																																	
(a) 避難者数	32,136	人																																																	
(b) 発生原単位	451	g/人・日																																																	
(c) 避難所ごみの発生量 (a×b)	14,493,336	g/日																																																	
(d) (単位換算)	約 14	t/日																																																	

4	p11~12	<p>⑤し尿 し尿発生量 (126,703 ℓ /日) は、以下の方法で推計する。</p> <p>ア 計算式</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>し尿収集必要量 = 災害時におけるし尿必要人数 × 1人1日平均排出量 = (し尿収集必要人数(※1) + 非水洗化区域し尿収集人口) × 1人1日平均排出量(※2)</p> <p>(※1)し尿収集必要人数 = 避難所避難者数 + 断水によるし尿収集必要人数*</p> <p>*断水によるし尿収集必要人数 = {水洗化人口 - 避難者数 × (水洗化人口 / 総人口)} × 上水道支障率 × 1/2</p> </div> <p>(※2)1人1日平均排出量 = 1.7 ℓ /人・日 (出典：環境省「災害廃棄物対策指針技術資料」)</p> <p>イ 推計時の前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多摩東部直下地震 (冬の18時・風速8m/s) を想定した都の被害想定結果を前提とする。 ●断水のおそれがあることを考慮し、避難所に避難する住民全員が既存のトイレでは処理しきれず、し尿収集が必要となると仮定する。 ●断水により水洗トイレが使用できなくなった在宅住民も、し尿収集が必要であると仮定する。 ●断水の影響を受ける住民は、上水道が支障する世帯のうち半数とし、残り半数の在宅住民は給水等により用水を確保し自宅トイレを使用すると仮定する。 ●区内においては、下水道に接続していないみ取り便所の戸数が、令和6年7月時点で0戸となったため、非水洗化区域し尿収集人口は0人である。 ●水洗化人口は下水道普及率がほぼ100%であるため、総人口と同じとする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>数量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>避難者数</td> <td style="text-align: right;">47,880</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>水洗化人口</td> <td style="text-align: right;">294,644</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>断水によるし尿収集必要人数 (※1)</td> <td style="text-align: right;">26,651</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>上水道支障率</td> <td style="text-align: right;">21.6</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>し尿収集必要人数 (※2)</td> <td style="text-align: right;">74,531</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>非水洗化区域し尿収集人口</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 断水によるし尿収集必要人数 {294,644 - 47,880 × (294,644 / 294,644)} × 21.6% × 1/2 = 26,651 人</p> <p>(※2) し尿収集必要人数 47,880 + 26,651 = 74,531</p> <p>ウ 発生量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>数量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(a) し尿収集必要人数</td> <td style="text-align: right;">74,531</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>(b) 非水洗化区域し尿収集人口</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>(c) 1人1日平均排出量</td> <td style="text-align: right;">1.7</td> <td>ℓ /人・日</td> </tr> <tr> <td>(d) し尿発生量 (a+b) × c</td> <td style="text-align: right;">126,703</td> <td>ℓ /日</td> </tr> </tbody> </table>	項目	数量	単位	避難者数	47,880	人	水洗化人口	294,644	人	断水によるし尿収集必要人数 (※1)	26,651	人	上水道支障率	21.6	%	し尿収集必要人数 (※2)	74,531	人	非水洗化区域し尿収集人口	0	人	項目	数量	単位	(a) し尿収集必要人数	74,531	人	(b) 非水洗化区域し尿収集人口	0	人	(c) 1人1日平均排出量	1.7	ℓ /人・日	(d) し尿発生量 (a+b) × c	126,703	ℓ /日	<p>⑤し尿 し尿発生量 (104,107 ℓ /日) は、以下の方法で推計する。</p> <p>ア 計算式</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>し尿収集必要量 = 災害時におけるし尿必要人数 × 1人1日平均排出量 = (し尿収集必要人数(※1) + 非水洗化区域し尿収集人口) × 1人1日平均排出量(※2)</p> <p>(※1)し尿収集必要人数 = 避難所避難者数 + 断水によるし尿収集必要人数*</p> <p>*断水によるし尿収集必要人数 = {水洗化人口 - 避難者数 × (水洗化人口 / 総人口)} × 上水道支障率 × 1/2</p> </div> <p>(※2)1人1日平均排出量 = 1.7 ℓ /人・日 (出典：環境省「災害廃棄物対策指針技術資料」)</p> <p>イ 推計時の前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ●都心南部直下地震 (冬の18時・風速8m/s) を想定した都の被害想定結果を前提とする。 ●断水のおそれがあることを考慮し、避難所に避難する住民全員が既存のトイレでは処理しきれず、し尿収集が必要となると仮定する。 ●断水により水洗トイレが使用できなくなった在宅住民も、し尿収集が必要であると仮定する。 ●断水の影響を受ける住民は、上水道が支障する世帯のうち半数とし、残り半数の在宅住民は給水等により用水を確保し自宅トイレを使用すると仮定する。 ●区内においては、下水道に接続していないみ取り便所の戸数が令和6年7月時点で0戸となったため、非水洗化区域し尿収集人口は0人である。 ●水洗化人口は下水道普及率がほぼ100%であるため、総人口と同じとする。<u>なお、総人口は令和2年国勢調査人口とする。</u> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>数量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>避難者数</td> <td style="text-align: right;">32,136</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>水洗化人口</td> <td style="text-align: right;">301,599</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>断水によるし尿収集必要人数 (※1)</td> <td style="text-align: right;">29,103</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>上水道支障率</td> <td style="text-align: right;">21.6</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>し尿収集必要人数 (※2)</td> <td style="text-align: right;">61,239</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>非水洗化区域し尿収集人口</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 断水によるし尿収集必要人数 {301,599 - 32,136 × (301,599 / 301,599)} × 21.6% × 1/2 = 29,103 人</p> <p>(※2) し尿収集必要人数 32,136 + 29,103 = 61,239</p> <p>ウ 発生量</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>数量</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(a) し尿収集必要人数</td> <td style="text-align: right;">61,239</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>(b) 非水洗化区域し尿収集人口</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>(c) 1人1日平均排出量</td> <td style="text-align: right;">1.7</td> <td>ℓ /人・日</td> </tr> <tr> <td>(d) し尿発生量 (a+b) × c</td> <td style="text-align: right;">104,107</td> <td>ℓ /日</td> </tr> </tbody> </table>	項目	数量	単位	避難者数	32,136	人	水洗化人口	301,599	人	断水によるし尿収集必要人数 (※1)	29,103	人	上水道支障率	21.6	%	し尿収集必要人数 (※2)	61,239	人	非水洗化区域し尿収集人口	0	人	項目	数量	単位	(a) し尿収集必要人数	61,239	人	(b) 非水洗化区域し尿収集人口	0	人	(c) 1人1日平均排出量	1.7	ℓ /人・日	(d) し尿発生量 (a+b) × c	104,107	ℓ /日
項目	数量	単位																																																																									
避難者数	47,880	人																																																																									
水洗化人口	294,644	人																																																																									
断水によるし尿収集必要人数 (※1)	26,651	人																																																																									
上水道支障率	21.6	%																																																																									
し尿収集必要人数 (※2)	74,531	人																																																																									
非水洗化区域し尿収集人口	0	人																																																																									
項目	数量	単位																																																																									
(a) し尿収集必要人数	74,531	人																																																																									
(b) 非水洗化区域し尿収集人口	0	人																																																																									
(c) 1人1日平均排出量	1.7	ℓ /人・日																																																																									
(d) し尿発生量 (a+b) × c	126,703	ℓ /日																																																																									
項目	数量	単位																																																																									
避難者数	32,136	人																																																																									
水洗化人口	301,599	人																																																																									
断水によるし尿収集必要人数 (※1)	29,103	人																																																																									
上水道支障率	21.6	%																																																																									
し尿収集必要人数 (※2)	61,239	人																																																																									
非水洗化区域し尿収集人口	0	人																																																																									
項目	数量	単位																																																																									
(a) し尿収集必要人数	61,239	人																																																																									
(b) 非水洗化区域し尿収集人口	0	人																																																																									
(c) 1人1日平均排出量	1.7	ℓ /人・日																																																																									
(d) し尿発生量 (a+b) × c	104,107	ℓ /日																																																																									
5	p13	<p>(2) 水害 (発生前)</p> <p>本区は「荒川水系」が氾濫すると、洪水浸水想定区域図の浸水エリアを中心とした地域が被害を受ける可能性がある (参考：豊島区洪水内水ハザードマップ)。</p> <p>大規模な水害のほかに、支川の氾濫、高潮、内水による氾濫等が発生した場合には、洪水浸水想定区域図に指定されていない区域においても浸水が発生し得るので、対策を進めていくことが重要である。</p> <p>なお、発生量推計値 (発災前) は、今後の技術的知見等を踏まえ推計を検討していく。</p>	<p>(2) 水害 (発生前)</p> <p>本区は「荒川水系」の支流である神田川が氾濫すると、洪水浸水想定区域図の浸水エリアを中心とした地域が被害を受ける可能性がある (参考：豊島区洪水内水ハザードマップ)。</p> <p>大規模な水害のほかに、【赤字部分削除】内水による氾濫等が発生した場合には、洪水浸水想定区域図に指定されていない区域においても浸水が発生し得るので、対策を進めていくことが重要である。</p> <p>なお、発生量推計値 (発災前) は、今後の技術的知見等を踏まえ推計を検討していく。</p>																																																																								